

- 1 五月闇草木虫魚皆陽気
- 2 ぼうたんの天上天下すべてやみ
- 3 重力のかたまりとして苺かな
- 4 ウランよりウンコたのしよ夏の草
- 5 昼寢覚名もしらぬもの喰はされて
- 6 人喰ひし為体（ていたらく）にて大鯰
- 7 冷奴もつと人間らしうせよ
- 8 争乱やスープの淵に蠅とまる
- 9 碗に入れ西瓜の汁や酒を足す
- 10 虹を吐き虹を飲みこむユフラテス
- 11 葛切や五衰ゆるりとはじまれる
- 12 往生は成仏のまへ鱧の皮
- 13 長宗我部氏掟書や紙魚死滅
- 14 かき氷水没したる日なりけり
- 15 わが柩がらんどうなる涼しさよ
- 16 蛸壺を出られず蛸やそのまま死
- 17 漆黒の膚漆黒の汗出で来
- 18 熱帯魚末世の光放ちをり
- 19 西日中群衆なべてのつぺらぼう
- 20 打水や地球回転速度減
- 21 いつまでも廻るほかなし走馬燈
- 22 雲の峯割れ真中より雲の峯
- 23 左手のかつてにひらく原爆忌
- 24 ひろしまのうぜんかづらひらきけり
- 25 鳴くことをやめられぬまま蟬落ちぬ
- 26 八月や天より人の落ちてきて
- 27 あめりかの小鳥そろりと歩み寄る
- 28 テロリストNがさいごに喰ひし柿
- 29 秋高しナツプサックに手榴弾
- 30 蟪蛄を啄めば鳥撃たれける
- 31 人殺す人殺す人九月尽
- 32 人類の戦の数や銀河の尾
- 33 我のみが常に即今（いま）なる天の川
- 34 秋深し音声消して観るテレビ
- 35 唇へやけに毒づく林檎かな
- 36 意図的な誤訳もあれよ秋涼し
- 37 鯛雲透けぬ全天桃色に
- 38 降りそそぐ雨と火の粉や秋津島
- 39 じぱんぐをすつぽりおさめて秋の夢
- 40 新（あら）たしき齒車軋む夜長かな
- 41 戦争は発作にあらず月に暈
- 42 而して花野へきたる戦かな
- 43 光昏の薄浄土にあそばむや
- 44 一切の磨かれてをり水の秋
- 45 凡つねに奇をなぶるなり水紅葉
- 46 膨脹をやめたる雲や秋の暮
- 47 白桃を剥けば剥くほど自失せる
- 48 桃色のカプセル飲むや冬ざれて
- 49 上等の肉の色して枯葉かな
- 50 人間をとことん憎む神の留守

- 51 水金地火木土天海冥寒玉子
 52 空間の潰れし都市や雪催
 53 世界貿易センター跡や雪間とも
 54 人類は突然変異雪の華
 55 核の冬まであの人を待つてゐる
 56 数へ日の日出づる処こげくさし
 57 鬼やめて鬼を狩るなり大晦日
 58 宇宙には監視衛星去年今年
 59 戦場に窮屈すぎし枯野かな
 60 アフガンの起伏に富める蒲団かな
 61 年鑑の厚し旧約聖書より
 62 災厄の蓋あけてある今年かな
 63 氷海を蓋ひしものぞ消えゆける
 64 舵取りの一人もをらず宝船
 65 初夢に皆集まりて死支度
 66 わが死には汝がつきそへ雪女郎
 67 脳内を曝して笑ふ雪女郎
 68 福笑絶望の表情もあれ
 69 眼球の納まり悪し冬籠
 70 肉よりも霊の重たし冬籠
 71 毬つけば人を殺めし心地かな
 72 人間はなべて病人水仙花
 73 さびしさに玄武甲羅をうらがへす
 74 湯豆腐や泣くならうまく泣きなさい
 75 全言語下手なるままや粥柱
- 76 包装紙内包装紙光悦忌
 77 いまむかし常(とは)に戦前石路の花
 78 狐火に導かれまた逢ひにゆく
 79 狐火の無辺にともる夢野かな
 80 梟と維新前夜を明かさむか
 81 ラグビーのむなしくなれば政(まつりごと)
 82 誰にでも懐く老犬多喜二の忌
 83 心房はさびしきところ霾れる
 84 戦士かつ殉教者とも唐椿
 85 半生は睡りの中や梅の花
 86 涅槃図のものとごとく死に絶えき
 87 囀や地表に未だ大気ある
 88 しまりなき春の光やもてあます
 89 春たけなはにはとりの首刎ねられぬ
 90 銃声と思ふまで亀鳴きにけり
 91 うつくしく人の壊れてシクラメン
 92 ひとの敵かならずやひと苜蓿
 93 十字架の釘錆びてをり花の昼
 94 花の下人々儀式めきにけり
 95 花筏流れきたれば供花とせよ
 96 不可思議も刹那も数や花明り
 97 奈落には奈落のおきて蛙鳴く
 98 退化より進化の不安目借時
 99 われもまた宇宙人(びと)なり万愚節
 100 戦争と戦争の間の臃かな